

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
251	OP105	大峰・行者還岳～大普賢岳	2008/11/2～3	宮平、長瀬	11/2～3 川迫川渓谷周辺の紅葉まつりで大賑わい、道路規制しているが道路端に止めている車で思うように進まない。お陰でゆっくりと車中からあざやかな紅葉が楽しめる、トンネル西口周辺も見ただこと無いほどの車が道路際に止めている。私達もここでタクシーを降る。約3時間の行程、天気、景色言うことなしで小屋に到着、ついでに行者還岳山頂へ、本日の行動終了。11/3 5:30雨降りそう、明かりをつけてのスタート、大普賢岳に近づくにつれ単独の登山者と行き交う、私達12名はさぞかしかさばるペースになりそう。山頂からの下りも今まで経験したこと無いほど登山者と行き交う、指弾窟から少し下ったところからP1326の尾根、笹の窟尾根へ、なだらかな下り、素晴らしい景観と誰も会わない「満足感」が皆さんと共有できたか・・・。植林帯を下り東屋から和佐又口バス停へ。十分楽しんだ心に残る二日間でした。	宮平良雄、長瀬茂正、樫田克彦、安岡和子、畑山禮子、柴田弘子、安部泰子、黒澤百合子、保木道代、小椋美佐、安本昭久、安本嘉代	12
252	一般142	京都・金毘羅山	2008/11/9	秋田、大西(征)	戸寺のバス停でストレッチ体操を済ませ、曇り空を見ながら雨の降らないよう祈り、金毘羅山に出発。昔岩登りに来たのだが、道の記憶がない・・・たわいの無い事を話しながら江文神社に着く。江文峠の道は、水の流れている薄暗い小さな谷に入り、最後は広い道で、きついがすぐ峠です。峠から落ち葉の小道を緑と紅葉の中を小鳥の囀りを聞きながら難なく翠平新宮社に着く。ここから急な石段に一汗掻き尾根筋を行くと静原と大原の分岐、ここから金毘羅山山頂は一登り。祠を過ぎ石塔の所が展望が良いここから3分ほどで金毘羅山三角点。山頂から大原分岐まで戻り、翠黛山に向かうが翠黛山の横を巻いて南に下り、途中で行き過ぎ、翠黛山までもどる。思わぬ所で地図の勉強をする。翠黛山から天ヶ岳の分岐まで展望の良くない尾根筋を分岐へ。ここからゴロゴロした薄暗い道を林道を経て寂光院へ下る、ここから山岳モードから観光モードに切り替わる。	秋田文雄、大西征四郎、紀伊埜本博美、松本明恵、寺島直子、齋藤容子、吉田伸寛、山本洋、三浦清江、小椋美佐、岩崎憲代、寄川都美子、岸本久仁雄、西村晶、本郷善之助、田中智子、樫田克彦、奥中種雄、西田保、高木恵美子、辻角ますみ	21

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
253	OP106	山陰・三徳山、投入堂と船上山	2008/11/15 ~16	紀伊埜本、奥中	<p>三徳山 投入堂 平成の大改修と題したNHKの映像を覚えている人は多い。絶壁に張付けられた社殿は、役小角が法力で投げ込んだという伝説があるほど、その姿は印象的である。三佛寺の本堂前で入山のチェックを受けたあと、結界を示す小さな橋を渡って登り始める。参拝を目的にした老若男女にとってはなかなかの難路である。急峻な尾根筋に巧みに配置された大小のお堂を巡りながら、最後に岩角を回ると忽然として現れる投入堂。これはまさに修験道の極意とする演出である。高差200m程、疲れもほどほどに出て、それなりの達成感を覚えるのだから楽しい。それにしても、今が盛りの紅葉を背景に投入堂は見事な立体感をかもし出していた。やはり理屈抜きで素晴らしい。船上山 南北朝時代 後醍醐天皇がこの天然の要害に立て籠もり鎌倉幕府軍と一戦を交えた古戦場として知られている。山中に浮かぶ巨大な船を伏せたような姿である。一面をススキに覆われた大斜面の上に、高差100mの屏風岩が1*ほど連なっている。その南端には雄滝 雌滝の二つの大滝が懸かり落差はやはり100mはあろう、壮観である。正面の屏風岩と大滝をかかえた岩壁とのわずかなズレに、正面コースという鳥取県国体(旧い話だ)のために整備されたルートがある。とくに危険なところはないが、雨上がりで滑り易く浮石も多い。でも屏風岩の真ん中を割って登るのは痛快である。恐らくは幕府軍を迎え撃つ守備隊の隠し道でもあったろうが、国土地理院の地図には破線路もない。せり上がった山頂の一角は薄ケ原と云う。やがてミズナラやブナの原生林の中に一筋の幅広い道が現れる。が、この道はすでに原生に戻りつつあり上下、左右、足元の落葉まで、うれしいことに紅葉に燃えるトンネルとなっていた。天皇の行宮跡を示す立て札の先も笹に覆われ踏跡は消えている。山頂の森に囲まれた船上神社は小さくて素朴、何の飾り気もなく人影も無い、誰が供えたか柿が一つ門灯にあった。これこそ歴史探訪の醍醐味である。2日に亘る山旅は幸いにも、いや奇跡的にも晴天にめぐまれた。投入堂は寺則により雨天の登山は禁止されている。船上山も雨天なら大滝直下を巡るルートも正面ルートも採らず、下山路とした東坂コースの往復となっていたろう。この日は朝から雨、天気予報も雨、それがなんと現地到着と同時に晴れ始め、下山と同時に再び降り出したのである。そしてまたしても書くが、前夜のひらめ御膳、ヒラメづくしが美味かった。当分ヒラメ様の顔も見たくないと言えば、贅沢な、これもまた誰かに叱られるだろうか。次なる目標はシリーズ第20回の記念山行、皆さん元気に頑張りましょう。</p>	紀伊埜本節雄、奥中種雄、紀伊埜本博美、高木恵美子、堀木宣夫、櫻田克彦、近藤さとみ、小林若一、木内勝之、内杉安繁、徳平忠久、横内まみね、小椋美佐、小椋勝久、青木義雄、山下登志子、寺島直子、和田敬子、和田良次、畑山禮子、柴田弘子、田中智子、上原進一、松本明恵	24
254	一般143	湖北・呉枯ノ峰	2008/11/30	大西(恒)、三原	<p>大阪を出る時は快晴でしたが、やはり湖北は福井に近い分日本海に影響されるのか小雨模様の山歩きとなりました。「呉枯ノ峰」、響きの良い名前ですが地図上には531.9mの一等三角点の印だけで山名はありません。実際に登ってみて何処といって特徴のない峰でしたが、天気の良いときに又行きたいなあという気にさせる山でした。見所は湖北4大寺の一つに数えられる古刹、管山寺周辺です。神仏混交の名残りが天満宮が同じ境内にあります。無住で荒れていますが往時の威容がしのべれます。今回は例会案内と逆コースをたどりましたが、コース採りとしてはこちらのほうが良いと思います。下山時、もうすぐ里というところで親子連れの熊に遭遇しました。こちらを向いたそうですが、幸い熊の方から離れてくれました。登る時に熊注意の看板があちこちにありましたが、本当に会うとは思いませんでした。この時期こちら方面を歩かれる人は注意して下さい。</p>	大西恒雄、三原秀元、青木義雄、奥中種雄、本郷善之助、小椋美佐、笠松マサエ、岸田暎子、柴田弘子、堀木宣夫、中川雅嗣、櫻田克彦、畑山禮子、田中智子、近藤さとみ、松本明恵、寄川都美子	17

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
255	一般144	貴船山から鞍馬山	2008/12/14	紀伊埜本、奥中	二の瀬駅から夜泣き峠への登り口に、小さな社がある。門表に右 守谷神社、左 富士神社と二社同居を示されていたが、そのまま素通りしてしまった。帰宅後しらべてみると、守谷神社は惟(これ)嵩(たか)親王(しんのう)、富士神社は親王の母紀(き)の静子(しずこ)を祀るものだという。歴史への関わりを実際に歩いて確かめたいと思うと、題材は次から次へと湧いてくる。たとえそれが史実において些細なことであっても、自分の手足でもって実感できるのは楽しい。夜泣き峠から貴船山を経て、午後から鞍馬山へと向かう。鞍馬山から北へ、貴船川と鞍馬川を分かち顕著な尾根が、花背峠まで続いている。この尾根筋を通して鞍馬寺まで出てみたい。当然のことながらハイキングコースではない。これは私の勝手な仮説だが、かの義経が、平氏の目を逃れ密かに鞍馬から脱出したのは、このルートではなからうか。奥貴船神社の対岸から、目標の尾根上にあるP634mに至る支尾根を登ることにする。少々の藪漕ぎは承知の上だが、日暮れが早いこの時期、ウロウロ迷うことは許されない。北北東に向かってせりあがる支尾根に出ると、はたして藪が待っていた。南に進もうとする目標の主尾根とは逆V字形に合流することになるのだが、解かっているが、逆に北へ北へと見通しの効かない藪を漕ぐのに一抹の不安があった。予定通りとはいえ、時間的余裕のあるうちに鞍馬山(経塚あり)に着いたときはほっとした。メンバーの皆さんの顔にもちよっとした達成感がうかがえる。800年も昔の義経と何かしら共有した気分で、夕暮れの迫る鞍馬寺の石段を下った。今日もまたE.P.Eを味わいながら・・・。	紀伊埜本節雄、奥中種雄、笠松マサエ、西村晶、樺田克彦、宮平由紀子、寺島直子、畑山禮子、柴田弘子、横内まみね、堀木宣夫、田中智子、紀伊埜本博美、小椋美佐、松本明恵、岸田暎子	16
256	一般145	大峰・観音峰	2008/12/21	本郷、宮平	台高・白屋岳の予定でしたが、登山口の白屋地区が立入禁止により、変更しました。12月下旬としては暖かい日が続いていました。天気予報は数日前より雨の予報でしたが、当日は晴天のもと観音平よりの展望はすばらしく稲村ヶ岳、大日岳、バリゴヤの頭、更に川迫川の向うに弥山、八経ガ岳と大峰北部を一望できました。予想より雪が少なく残念でした。参加者も13名と一般例会にしては少なく、今年の最終例会を終えることができました。	本郷善之助、宮平良雄、樺田克彦、堀木宣夫、黒澤百合子、岸田暎子、近藤さとみ、柴田弘子、小椋美佐、松本明恵、安部泰子、奥中種雄、長瀬茂正	13
257	一般146	新年ハイキング・三石山	2009/1/11	大西(恒)、岸本	新年会とセットとなった初歩きも、回を重ねると毎回違う所というわけには行かず、以前に登った三石山をコースを変えて企画しました。11月に下見で登った時にはさえないコースという印象でしたが、前日の積雪が単調さもアラも隠してくれ、一回りもグレードアップした新鮮さと適度な緊張感のあるコースとなっていました。50人を超す人数での行動ではよそ様への迷惑が気になるのですが、今回は幸いにも我々だけでした。加えてベテラン勢も多く担当者としてはよい初歩きができたと思っております。皆様はどうでしたか・・・。	大西恒雄、岸本久仁雄、紀伊埜本節雄、紀伊埜本博美、奥中種雄、谷孝司、三原秀元、西田保、宮平良雄、大西征四郎、板谷佳史、笠松マサエ、山倉康次、仙谷経一郎、松本明恵、安岡和子、畑山禮子、柴田弘子、和田良次、和田敬子、小椋勝久、小椋美佐、永島健一、谷村洋子、田中智子、横内まみね、津川洋子、山田春雄、樺田克彦、近藤さとみ、寄川都美子、岩崎憲代、寺島直子、山下登志子、川守田康行、辻角ますみ、堀木宣夫、中川雅嗣、安本嘉代、山本洋、齋藤容子、吉田伸寛、岡本佳久、三浦清江、杉本栄子、西村晶、西村美幸、梶田誠寛、西野勇治、大谷裕昭、和田都子、新里トヨ	52

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
258	'09年度新年会	紀伊見荘	2009/1/11	大西(恒)、磯辺	62人の参加を得て、定刻の3時半に新年会を始めました。代表あいさつ、活動報告、会計報告に加え今年は会員に配布するE.P. E. の熱転写ワッペンの実演を開宴の前に行いました。乾杯の後、いよいよ開宴です。宴も一段落したところでアトラクションの福引を開始し、今年も用意した景品に加え本郷さんからの写真額と和田(晴)さんの油絵額の提供を受け大いに盛り上がりました。 予定の6時半に閉会しましたが、名残は尽きず7時を過ぎるまで散会することがありませんでした。 恒例の行事であって式次第も定型化している新年会ですが、参加してくれた人に来年も来たいと思ってもらえるように、また少しでも会費分元を取ってもらおうと思って担当しました。	大西恒雄、磯辺秀雄、深井英司、紀伊本節雄、紀伊本博美、和田晴次、本郷善之助、竹中喜三郎、岸本久仁雄、奥中種雄、谷孝司、三原秀元、西田保、宮平良雄、宮平由紀子、宮平晶子、翁長和幸、横山寿夫、大西征四郎、板谷佳史、山倉康次、仙谷経一郎、安部泰子、松本明恵、安岡和子、青木義雄、畑山禮子、柴田弘子、和田良次、和田敬子、小椋勝久、小椋美佐、永島健一、徳平忠久、谷村洋子、田中智子、横内まみね、津川洋子、山田春雄、樺田克彦、黒澤百合子、近藤さとみ、寺島直子、山下登志子、川守田康行、辻角ますみ、堀木宣夫、中川雅嗣、安本嘉代、山本洋、齋藤容子、吉田伸寛、岡本佳久、上原進一、三浦清江、杉本栄子、西村晶、西村美幸、榊田誠寛、西野勇治、大谷裕昭、和田都子	62
259	一般147	泉南・四石山	2009/1/18	板谷、畑山	樽井駅から30分以上乗っても100円というありがたいコミュニティバスでつづら畑に降り立つ。午前中は曇りという天気予報をあてにしてさっそく府県境の標柱に向う。今回は確実にハンディGPSにルート設定してきたので活用しながら府県境尾根へ向う。そこからP374(昭和山)までは前回トレース済みなのでさしたる困難も無く到達。前回迷ったり、間違えた箇所も予習済みなので難なくクリアするが、P374付近で予報どおりの雨になる。ようやく目指す四石山の山頂が見え出すが、冷たい雨も手伝って参加者の声も少なくなる頃、樋ノ子峠に到着。前回より1.5時間早いペースで来られ、後はハイキングコースを辿るのみなので、安堵した。あいにく山頂からの展望は皆無だったが、幸い雨も止んでたいして濡れずに済んで山中溪駅に到着した。なお、樋ノ子峠の前後及び四石山頂からの下降路を完全に府県境を辿ることについては、雨のこともあり割愛した。観察する限り明瞭な踏み跡は無いようである。	板谷佳史、畑山禮子、大西征四郎、本郷善之助、堀木宣夫、吉田伸寛、仙谷経一郎、田中智子、小椋美佐、宮平良雄、西村晶、西村美幸、和田敬子、西田保	14
260	OP107	東北スキー場めぐり・蔵王	2009/1/25~28	紀伊本、大西(恒)	東北スキー巡り第2回 山形蔵王は本当に素晴らしかった。古い歴史をもつ上の台一帯の北地域は、数え切れないほどの多彩なコースが交差する変化に富んだゲレンデ。いつぼう近年開発された黒姫、大森など南地域は、幅広く豪快な滑降が楽しめるロングコース。そして樹氷(モンスター)に彩られた山頂地域の華やかな癒しの世界。この三つの味わいを同時に得ることが出来るのが山形蔵王の特徴といへるでしょう。それは丁度、我等がクラブ名、EPEそのままに「楽しみ多い北地域、力強さの南地域、そして優雅な山頂一帯」 どうでしょう、このキャッチフレーズそっくりそのまま地元観光局に差し上げたいほどだ。 お天気に恵まれたのも幸いした。3日目は濃いガスのなか若干の降雪に見舞われたが、連日続く新雪の粉雪。太股がパンパンになるほど全コース制覇と駆け巡ったが、わずかに残すところもあり残念だ。ゴンドラ4基、リフト37基、よくぞ使ったものだと思う。ところで、初日、二日目、三日目と続くうちに、メンバーの腕前は明らかに上達していく、よく頑張り努力する人も、のんびり才気を発揮する人も、こんなに誰もが楽しみながら進歩上達できるスポーツは他に無いだろう。しかも花も恥じらう中高年にしてそうだから、これほど「よりハイエイジな活動」にマッチしたスポーツはない。ただ一つ、この喜びを得るに必要なことは、まず始めてみようとする、ほんの少しの勇気がいることでしょう。東北一円の地図を広げて、次回の候補地を巡り話題は尽きない。貸しスキーからマイスキーに転向する人、来年こそ北海道にも参加するぞと誓う人、東北スキー巡りは、まだようやく始まったばかりです。	紀伊本節雄、大西恒雄、畑山庄司、畑山禮子、和田良次、和田敬子、本郷善之助、上原進一、宮平由紀子、山下登志子、寺島直子、津川洋子、高木恵美子、紀伊本博美	14

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
261	一般148	丹波・五台山から親不知	2009/2/1	三原、板谷	大阪では晴れ渡っていた空も、丹波の石生駅に着く頃には冬型の曇り空となってくる。駅よりタクシーに分乗して登山口の浅山不動尊まで入る。独鈷の滝を左に見て、薄暗い杉林の登山道を行く。尾根に出る頃より雪が出てきて明るくなりさわやかな気分にしてくれる。五台山の頂上は展望もよく広々としているが、風が強いので、先に行くことにする。親不知までは、まだ6Km位ある。小さなピークをいくつも越えて行かねばならない。この道は京都府、兵庫県の「分水界の径」であるが雑木の繁った不明瞭な所もありルートを探しながらの縦走は少々緊張感もあり、結構楽しいものだ。親不知の頂上には14:20着、展望も良く多紀アルプスの方も望まれる。ゆっくりとしたところだが、これから未知の下山ルートが待っているのので、急いで大原神社へと向って下る。タクシーで市島駅へ出て帰阪する。今回、参加者はほとんど親不知の年代の人ばかりでしたが、雪の中のロングハイキングを皆元気で楽しい一日でした。	三原秀元、板谷佳史、仙谷経一郎、宮平良雄、岩本和行、樺田克彦、近藤さとみ、柴田弘子、田中智子、畑山禮子、安本昭久、安本嘉代、岸田暎子、黒澤百合子	14
262	OP108	熊野古道・梅薫る紀伊路	2009/2/7	紀伊桒本、奥中、野口	紀州路は梅の開花に合わせて行くことにしていた。印南一帯は南高梅の産地としてよく知られている。切目王子から千里王子まで、のどかな村落の間に満開の梅林が次々と現れてくる。桜花に比べると華やかさは薄れるが、その分、凛とした香りは清楚で美しい。千里浜海岸では砂浜を1km程歩いた。昔人は波に足を洗い、垢離として身を清めたというが、いま登山靴で歩む我々は何と言えよいだろう。熊野古道シリーズ第9回目の終わりは、梅林に腰を下ろし、静かに各自持参のコップ酒を手にする。天気は快晴、暖かさは程よく、語るに言葉なし、優雅な気分だ。	紀伊桒本節雄、奥中種雄、野口秀也、紀伊桒本博美、高木恵美子、青木義雄、堀木宣夫、辻角ますみ、横内まみね、西田保、神阪洋子、岩崎真美子、中川雅嗣、畑山禮子、柴田弘子、田中智子、津川洋子、樺田克彦、小椋美佐、大谷裕昭	20
263	一般149	伊勢・経ガ峰	2009/2/11	長瀬、大西(征)	宝並谷左俣に登る予定にしていたが、参加者等を勘案し宝並林道途中の枝尾根から稲子山の主尾根に取付き経ガ峰に。あいにくの雲空で、概要通りの、伊勢湾を望む、素晴らしい展望の山とはいきませんでした。短いコースながら、変化に富み適度な汗をかき静かで楽しい山行を楽しむ事が出来たのではないかと。	長瀬茂正、大西征四郎、三原秀元、奥中種雄、仙谷経一郎、板谷佳史、樺田克彦、中川雅嗣、田中智子、柴田弘子、柴田友宏、畑山禮子、神阪洋子、安岡和子、黒澤百合子	15
264	一般150	伊那佐山	2009/2/14	大西(恒)、長瀬	榛原駅から杉谷行き路線バス10分で比布へ、バスは参加者25名の我々で貸切り状態。伊那佐山へは沢城跡(山城跡、戦国のキリシタン大名・高山右近に關係付けて説明されているが実際はどの程度・・・?)經由で登る。少し寄り道して文祢麻呂の墓へ往復。展望の良い猿岩を経てメイン登山道と合流すると、立派な社殿と休憩所を持った都賀那岐神社の鎮座する伊那佐山頂に至る(三等三角点は社の陰に有る)。ここまでは道標があちこちに有り道を間違えることがないが、北に向かって井足岳へ足を延ばすと下りきった林道には「ここから先はハイキングに適さない」旨の看板が立っている。注意書きの通り倒木が多く跨いだり、くぐったりで予想外に時間がかかる。道標もなく赤、黄のテープに導かれ地図を確認しながら道を進むと手作りの山頂表示のある井足岳(550m)に着く。くだり気味に進むと沢沿いとなりポツと舟尾集落最奥の民家の前に出て縦走を終わった。あとは墨坂神社の横を通って榛原駅へ。予定では軽いコースと思っていたが、後半は荒れていて手応えのあるハイキングとなりました。	大西恒雄、長瀬茂正、青木義雄、紀伊桒本節雄、紀伊桒本博美、高木恵美子、西田保、西村晶、中川雅嗣、横内まみね、黒澤百合子、安本嘉代、安本昭久、松本明恵、板谷佳史、寺島直子、和田敬子、實操綾子、岡本佳久、堀木宣夫、樺田克彦、奥中種雄、仙谷経一郎、畑山禮子、柴田弘子	25

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
265	OP109	大峰・稲村ガ岳	2009/2/21~22	宮平、本郷	大峰の積雪期、全コース、トレースをつける意気込みで、この計画を企画したが予想は大きく外れ、一昨年の12月よりひどい雪不足。しかし高度を上げると樹氷帯となり「輝く光景」は見事である。稲村小屋の南面にテント場を設ける、明日のルート確認と状況が許せば山頂へと2名を送り出す。残りの方で整地後、テント設営、2時間後偵察隊帰る。問題のトラバースは先人達の大きなバケツ状態のステップがあり、問題無い旨の情報を得て、2つのテントに分かれて食事の用意、優雅な食事となる。翌朝5:45スタート、大日のコルで明るくなるまで待機し、緊張しながら通過。昨日あった樹氷が全く落ちて無くなっていたのが残念だが、「日の出」を山頂で拝めた。この時期、積雪量はともかく天候に恵まれ「大峰の冬」を体験できたことに感謝したい。	宮平良雄、本郷善之助、板谷佳史、安部泰子、保木道代、畑山禮子、柴田弘子、安岡和子、小椋美佐、黒澤百合子、安本嘉代、谷村洋子	12
266	一般151	大和・龍門山	2009/3/1	板谷、大西(恒)	大峠から稜線に出ると深い笹の道が続く。踏み跡ははっきりしているのだが、昨夜の雨で笹は濡れている。おまけにその下の踏み跡はドロドロ・スルヌルで皆足元が濡れるか汚れるかで不平を言いつつの1時間半で、やっと笹から開放される。日も照りだして暖かな昼食の後、山頂へ…。この山頂は展望がきかないが、しばしの憩いの後、津風呂湖を見下ろしながらすっかり春めいた吉野の里へ下山する。下山口の山口神社からタクシーを呼んで、14:30頃、大和上市駅にて解散。	板谷佳史、大西恒雄、奥中種雄、柴田弘子、畑山禮子、小椋美佐、岸田暎子、谷村洋子、大西征四郎、青木義雄、田中智子、本郷善之助、寺島直子、堀木宣夫、樺田克彦、黒澤百合子、松本明恵、江本恭子、江本由貴、中川雅嗣、西田保、仙谷経一郎、安本嘉代、安本昭久	24
267	OP110	スキーカーニバル イン 北海道・トマム	2009/3/8~12	紀伊莪本、畑山	参加者16名の内、7名の諸氏がすでに70才を超えている。数えてみて始めてアレアレという思いだが、このコメントも映像も、そんなジェネレーションから発信されたものだと、ご承知置き下さい。さてかつてゲレンデスキーといえば、芋の子を洗うような混雑、長蛇の列のリフト待ち、加えてムセ返るような食堂の匂い、だがそんな連想は今や無縁です。少なくともEP Eのスキー企画にはそんなものはない。朝から夕刻まで滑りに滑り込む距離は、おそらく今日の一日は昔のシーズンに匹敵するだろうし、進歩の度合いはそれ以上だろう。それだけにスポーツとしての実感性は高く、よくやったという達成感はまだことに心地よいものだ。また、山スキーの醍醐味を知る者にとって、その喜びを再現する機会がないと思うのも辛いものである。だが、東北や北海道のゲレンデでは地吹雪の舞い上がる山頂に立つこともしばしばである。一瞬の視界を逃がさず、しっかり目標をとらえ「よし、行くぞ！」と滑り出す瞬間、胸の内が熱くなって来る。忘れられたあの頃の息吹きが甦る思いだ。新しい用具の進歩もまた素晴らしい。かつてジルブレッタが開発され、山スキーの領域が飛躍的に拡大された様に、いまカービングスキーの出現はゲレンデを一変させた。チマチマした小回りは姿を消し、オンザレールに引かれた豪快なターンの味わい。現実はいざ知らず、頭のなかには雪面にぐいぐいと喰い込まれる鋭い切れ味、これこそカービングスキーの成せる業といえるでしょう。今年は新しくスキーを購入した人が4名も出ました。一日の終わりに、まるで子供が与えられた玩具を愛しむ様にしっかりと手入れに勤めます。翌朝は誰よりも早く起きてせっせとワックス掛けに励みます。「あと何年スキーが出来る気？」そんな冷やかしかどもど吹く風、この熱気の前では解けて流れてしまうのもご理解いただけるでしょう。来年もまた新しい仲間を拓けましょう。事を始めるに遅いというのは何も無い、よりハイエイジな活動を目指し大いに楽しみましょう。そしてまた叫びましょう、スキー万歳！オーシーハイル！オーシーハイル！	紀伊莪本節雄、畑山禮子、西村晶、西村美幸、和田良次、和田敬子、畑山庄司、本郷善之助、上原進一、横山寿夫、内杉安繁、山田春雄、達健一、高木恵美子、山下登志子、紀伊莪本博美	16
268	一般152	信楽高原・笹ヶ岳	2009/3/14	三原、秋田	雨天中止		

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
269	OP111	奥越・経ガ岳	2009/3/20~21	板谷、長瀬	テント設営予定の保月山には必要な積雪量が無かろうと思われ、法恩寺林道の展望所にて泊とした。翌朝は、またまたラッキーな天気巡り合わせとなって、快晴、紺碧の空の元での登山となった。保月山より上部では堅くクラストした雪の急斜面のアイゼン登行となり、普段お飾りのアイゼンしか機会の無かった人にとっては、アイゼンというものの本当の使い方が身にしみたのではないのでしょうか。今回もテント地からの軽装でのアタック形式としましたが、それでも体力、アイゼン技術共に不足気味の参加者も見られ、悪天時のリスクも勘案するとEPEクラブの雪山登山としては、今回の山行程度が限界かと思われます。	板谷佳史、長瀬茂正、宮平良雄、三原秀元、安部泰子、近藤さとみ、黒澤百合子、畑山禮子、柴田弘子、保木道代、安本嘉代、谷村洋子、村浪義光	13
270	一般153	柳生街道	2009/3/29	大西(征)、磯辺	JR奈良駅からバスで忍辱山へ。名刹円成寺を起点として奈良市内までの13kmを辿る。宮本武蔵や荒木又右衛門などの剣豪達も歩んだと言われる柳生街道滝坂の道は春日山原始林の一角を占め、美しい自然林中、地獄谷石窟仏、首切り地藏、朝日観音、夕日観音、寝仏などの石仏が静かに私たちを迎えてくれた。また、能登川の溪流沿いの石畳の道や峠の茶屋など往時の佇まいを今に残しており、古き時代に思いを馳せた一日でした。	大西征四郎、磯辺秀雄、樺田克彦、堀木宣夫、本郷善之助、山本洋、岸本久仁雄、吉田伸寛、奥中種雄、岸田暎子、横山寿夫、藤田喜久江、横内まみね、和田都子、寺島直子、杉本栄子、寄川都美子、河野佐智子、仙谷経一郎、安岡和子、田中智子、柴田弘子、畑山禮子、野口秀也	24
271	一般154	七望流蕎麦道場と旗倉山	2009/4/5	紀伊塾本(節)、柴田(弘)ゲスト指南役:永井文雄	軽いハイキングのあと、何か美味しくて珍しいものに出会いたい。そのうえ粋で優雅で、さらに我々が懐具合に叶うもの、そんな虫の好い企画は無いものか、そのシリーズ第1回に遂に手を染めてしまった。ほんの先年まで、そんな軟弱な企てに表立って手が出せるものかと思っていたが、人はがらりと変わるから面白い。EPEの本道に照らすと、これは軟弱でも墮落でもない、進歩という名の人の歩みである。いや御託を並べる必要は無いのだ。今日は、晴れでもなし曇りでもなし絶好の花日和にめぐまれた。ハイキングも程よいかげんで、ハイカー達に見捨てられた里山には捨て難い味がある。そしてさくら満開の金剛寺、そこに七望流蕎麦道場がある。指南役の永井文雄君はかつて日本を代表したアイスクライマー、我が会ではインドヒマラヤに最初の足跡を残した功績がある。熱血漢は蕎麦道でも熱い男になっていた。かっぶくも良い、ひげも良い、手裁きが理にかなっているのか、無駄なく美しい。誰かが云っていた、あれは山ヤの習いというものだ。それにしても、こんな旨い蕎麦を腹いっぱい食べたことはない。なんと35名で120~30人前もの蕎麦を平らげたという。何ともお元気な方ばかりですねと、褒められたのか、卑しまれたのか、私が赤面したのは、少し入ったお酒のせいばかりではない。七望流の会長をはじめ会員の方々が精魂を込めて打たれたお蕎麦、打つも打ったり、喰うも喰ったり、これぞ蕎麦道 真剣勝負と見て下されたら有難き幸せ。七望流蕎麦道場の益々のご盛隆を心からお祈り申し上げます。有難う御座いました。さて次回からこのシリーズ、どんな企画が待つのやら、けっして今日ほどの期待は持たずに参加されることを切に望みます。	紀伊塾本節雄、柴田弘子、畑山禮子、辻角ますみ、紀伊塾本博美、奥中種雄、樺田克彦、仙谷経一郎、横内まみね、西田保、山田春雄、宮平良雄、わだ和田敬子、上原進一、杉本栄子、山本洋、齋藤容子、よしだ吉田伸寛、岡本佳久、三浦清江、柴田友宏、津川洋子、小椋美佐、大西征四郎、大西恒雄、青木義雄、山下登志子、磯辺秀雄、西村美幸、三木敬子、板谷佳史、横山寿夫、大谷裕昭、加福輝之、堀木宣夫	35
272	一般155	京都北山・棧敷ガ岳	2009/4/11	本郷	京都北山の名峰と言われる山で京都市内より鴨川の上流にどっしりと見える棧敷ガ岳は、皇位継承に敗れ大原の里に隠栖した惟喬親王が棧敷を作って京の都を望んだという。そして「伝説に彩られた山と峠は歴史の奥深さを感じさせてくれる」・・とありますが、登山道周辺は所々伐採され、見る影もない所もあり、少し寂しい気分になりましたが、天気は申し分なく快晴のもと楽しく歩きました。	本郷善之助、樺田克彦、仙谷経一郎、畑山禮子、奥中種雄、大西征四郎、板谷佳史、安本嘉代、安本昭久、谷村洋子、松本明恵、宮平由紀子	12

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
273	OP112	熊野古道・小雲取り越え	2009/4/18~19	紀伊埜本、奥中、野口	熊野古道シリーズ最終回が無事終了しました。2006年6月から始めた第1回から数えて2009年4月の第10回まで、約3年に亘り大辺路、小辺路など5つに大別される各路から代表的かつ魅力的なコースを選んで、延べ16日、延べ225名のメンバーが参加した盛況なものとなりました。このシリーズの始まった動機は、古参会員の野口秀也さんが2006年1月に発刊された「熊野古道を歩こう」に啓発されたことでもあります。話せば長くなりますが、およそこのようなテーマとは無縁とされている(現在の)泉州山岳会にあって、どっこい、創立当時(1940年)の伝統を引継ぎ、今なお近畿の山々を黙々と愚直なまでに歩んでこられた会員が健在されていることに、正直、驚きと感動を覚えたことでもあります。その上ありがたいことに、その野口さん自身がこの企画に賛同され全10回全てにゲスト講師として参加されました。このことが今シリーズにより一層の弾みをつけたものと思われま。とは云え、シリーズ開始当初は熊野古道とはそもそも何かと問われても、実は企画者より参加者のなかにより精通された方が多く、逆に教を請うこともありま。しかしそのことの功罪をあげるならば、知らぬが幸いで、白紙の中から逆に山丫の好みと古道の条件のかみ合うところを上手く企画に盛り込めたのが、功となったのかも知れません。最終回の初日は熊野川の船下りとなりました。平安の雅には遠く及ばずとせよ、まずは平成の優雅な気分を味わうことが出来ま。同夜は渡瀬温泉に宿をとり、打ち上げの宴となりました。省みて、やはりこのシリーズから何かを得た、という思いが全員の目に宿っている様でありま。小なりとは云え、それが達成感というものでしょうか。翌日は快晴のもと、かつて終日雨中のなか難渋した大雲取越えに比べてまことに平穏な小雲取越えを果たし、これにて総て終了しま。ここに改めて完結のご報告と、関係者の皆様に心から感謝の意を表しま。なお全10回参加者をはじめ多数回参加者は以下の通りです。10回参加者 青木義雄・櫻田克彦・畑山禮子・神阪洋子・柴田弘子・横内まみ他に担当者3名 9回参加者 堀木宣夫・田中智子・小椋美佐・紀伊埜本博美。 8回参加者 高木恵美子。 7回参加者 西田保・徳平忠久・岩崎真美子。	紀伊埜本節雄、奥中種雄、野口秀也、紀伊埜本博美、青木義雄、堀木宣夫、徳平忠久、横内まみね、西田保、神阪洋子、畑山禮子、柴田弘子、田中智子、櫻田克彦、近藤さとみ、小椋美佐、山下登志子、辻角ますみ、本郷善之助、安本嘉代、安本昭久、小椋勝久、横山寿夫、仙谷経一郎	24
274	OP113	鉢伏山と氷ノ山	2009/4/25~26	宮平、長瀬	集合時刻雨、ドライブ中雨、目的地周辺雨、当初のキャンプ地不適當、物色の後奈良尾キャンプ場炊事棟有料で借り受け、本日の寝床を確保、消化ゲームのように車で林道出合まで散歩気分で鉢伏山山頂へ雪のないスキー場はリフト設備だけが目立っている、もちろん展望もきかない。キャンプ場にもどり夕食の準備、名張の里山から摘み取った山菜の数々豪華な山菜の天婦羅を贅沢にいただく。夜半も強い風養生シートがやかましい。翌朝車で親水公園へ移動、予定通りスタート、標高を上げるにつれ雨風が雪風となり季節はずれの冬山状態となる。(発達した前線が大山にも雪、北海道大雪等荒れ模様)氷ノ山越小屋、山頂小屋、東尾根小屋の3避難小屋での休憩場所は非常にありがたく感じた。この貴重な経験を今後に生かして下さい。	宮平良雄、長瀬茂正、畑山禮子、柴田弘子、田中智子、櫻田克彦、保木道代、奥中種雄、板谷佳史、本郷善之助、大西征四郎、仙谷経一郎	12

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
275	一般156	高野山・町石道	2009/4/29	大西(征)、板谷	高野山町石道は高野山参詣の祈りの道、癒しの道で弘法大師空海によって開かれた、慈尊院からの参詣道で、木造の卒塔婆が建てられ高野山への道標であったが、年数を重ね朽ち石造り五輪塔形の町石が20年の歳月をかけて1285年に完成した。この180基を探しながらの山行である。九度山駅を下車したのは2パーティで静かな山行と思われた。丹生官省符神社石段の180町石に完歩の願い、歴史に思いをはせながら 快晴気温15度と天も我々を味方にしての出発となった。新緑が鮮やかな柿畑を左右に見ながら、急な上りも快くこなし、紀ノ川、紀泉高原の眺めと新緑を楽しみながら足が前に進む。手が入った杉林の中を、時々鳥のさえずりを聞きながら雑木林を、じゅうたんを敷き詰めた様な落ち葉に額の汗を落としながらの快い山行である。溪流沿いから急な木段を越えて高野山大門に到着、さすがに人の数が違う。180町石と4里石全て見つけることが出来なかった。しかし老若男女が22キロメートル完歩した、体力、気力に感謝、そして町石に感謝。	大西征四郎、板谷佳史、寺島直子、黒澤百合子、岸本久仁雄、辻角ますみ、安本嘉代、堀木宣夫、近藤さとみ、宮平由紀子、畑山禮子、柴田弘子、笠松マサエ、青木義雄、奥中種雄、安本昭久、豊西文一、西村美幸、仙谷経一郎、寄川都美子、横内まみね、山本洋、岡本佳久、吉田伸寛、齋藤容子、加福輝之	26
276	一般157	京都・愛宕山	2009/5/2	秋田、紀伊埜本	愛宕山は昔から京都の火除けの神様として、又ハイキングコースとしても京の人に親しまれている代表的なコースです。清滝バス停より、渡猿橋を通り赤い鳥居で登山準備と打合せをして、これより表参道の登山道に、小さい地藏を見ながら石段を登ると茶屋跡に、家族連れの中に混じり、ジグザグ道を登ると5合目の小屋。ここよりスギ木立の中、肌心地よい風があたり一息すると、老木を祭る大杉神社、水尾分岐と黒門大鳥居。ここより愛宕神社境内に入っていく。社務所前の広場で昼食をすませ遅咲きの桜を見て愛宕神社に参拝する。月輪寺への道は展望もよく、北山方面を眺めながらシャクナゲの咲く月輪寺(天台寺)へ。空也上人立像など重要文化財の彫刻が何体か安置されている。又、親鸞上人手植えの「しぐれ桜」も有名である。ここよりスギと低木の中、ジグザグに下ると空也滝(空也上人の修行した滝)。薄暗い15mくらいの滝で、寒気がする修行場らしい雰囲気のある所です。あとは林道を下り、清滝バス停で解散する。	秋田文雄、紀伊埜本節雄、寺島直子、和田都子、藤田喜久江、神阪洋子、仙谷経一郎、横内まみね、堀木宣夫、山本洋、吉田伸寛、岡本佳久、畑山禮子、柴田弘子、紀伊埜本博美、近藤さとみ、辻角ますみ、横山寿夫	18
					熊野古道シリーズ番外編として、奥駆け南部の縦走をしてみたいと思ったのは、実はシリーズ当初からである。なぜ番外編なのか、それは山中2泊3日が必須の長丁場だからで、その他のシリーズのように、ハイキングの延長では済まぬからである。そのうえ、企画者を含む高齢者にとって、この山行に釣合うだけの気力、体力があるかどうか、きわどい判断である。しかし、なぜかこの区間だけは、行程を間延びしたり分割したりして、軟にしようにはスッキリしないものがある。釈迦から笠捨、地藏岳まで、ストレートで歩き通したい、それは企画者自身の勝手な想いというものだろうか。メンバー8名のうち半数が70才代である。立派なものだといえば立派だが、現実はどうなるかと想像されたい。3日分の食糧を含む個人装備が10Kg、他に共同装備がプラス5kgから1kgまで、メンバーの体力に応じて分担する(言葉は悪いが)山岳会方式の復活である。こんなことを実践するのは久しぶりだが、昨年あたりからそれを意識する例会はすでに始めていたので、決して突飛なことではない。でもこれは、はばかっても年相応の振舞いとは云えないだろう。それにしても、目覚めてから直ぐに歩き出す一日は実に長い。4時半起床、6時出発。2日目は15時まで、3日目は17時半まで一日11時間半の実働である。最後のピッチを残す貝吹野原までやって来たとき、やれやれと肩を撫で下ろした。残る1ピッチは高差450mの下りのみ、所要時間は50分と知っていたからである。だが、それを例えて、金剛山の山頂から登山口まで下ると同じぐらい、と誰かが云ったものだから、さてもさても本当に長い縦走だったと、あらためて強い実感を覚えたのである。	紀伊埜本節雄、奥中種雄、本郷善之助、川守田康行、畑山禮子、柴田弘子、紀伊埜本博美、小椋美佐	

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
277	OP114	大峰奥駆け道・南部縦走	2009/5/9~12	紀伊栞本、奥中	だからと言って、この縦走が辛いばかりであったとは、誰も思わなかったはずである。第一にチームワークが理想的に整っていた。延々と続く登下降に、苦しく喘ぐことがあっても、足並みが乱れることは一度も無かった。そればかりか、釈迦の肩から遙か遠くにどっかりと浮かぶ笠捨山を見たとき、南の彼方から釈迦が岳の雄姿を日々刻々と眺めたとき「おお凄い、素晴らしい！」と感嘆の声が止まなかったのは、まるで青春の日々がそこにあるかのような歓びであった。はたまた、山々の装いは北から南へと、何と忠実に移ろっていくのだろうか。釈迦周辺では、高い梢にわずかに芽吹いていた山毛櫨の樹が、やがて笠捨山に近づくほどに空いっぱいを新緑に染めていくのだ。石楠花の蕾みは、しだいにほころび、ついには満開の姿で迎えてくれるのである。白く可憐な五葉つじの花、鮮やかに咲き競うあけぼの躑躅、何一つとして季節の移ろいに逆らうものは無い。こんな摂理がしみじみと身近に感じられる自分達が、うれしくもあり、哀しくもあるが、それだけのお年頃になってしまったのかと思う反面「いやまだまだ、これからが勝負だ！」と満々とした意欲を表明するのだから何とも不思議なメンバーの集まりである。お天気運にもめぐまれた。出発日をスライド制としていたので、天気予報から一日早く出るようになったが、結果的に全日の快晴であった。シリーズの大峰そのⅠ、大峰そのⅡは両日とも雨だったので、きっとその埋め合わせに恵まれたのであろう。これほどしっかりと、大峰南部の山々を飽くことなく眺めたのは、初めてである。この山行きを契機に、少しずつではあるが、ハイエイジ登山の領域を広げてゆきたいと思う。それには云うまでもないが、日頃の鍛錬を怠ってはならない。高齢者が故にあきらめることは無いが、高齢者が故に努力を重ねねばならない。山行きの準備も戦略も役割分担も、さらには最新の装備や安全対策も、若かった頃以上に備えねばならない。そして、常に新鮮な目標を持ち続けることこそ、何よりも大切な事かと思うのである。		8
278	一般158	北陸・取立山	2009/5/17~18	本郷、長瀬	「ミスバショウが見頃です、山頂は360度の展望です。」との二つの条件が揃った楽しい山行となりました。出発の日には雨模様の天気でしたが翌日は晴天との予報を信じ出発。福井経由のえちぜん鉄道でのんびり約1時間、勝山着、迎えのバスで平泉寺荘へ、隣は新しい勝山城が迎えてくれました。翌日は送迎バスで登山口まで無料のサービス(宿泊も60歳以上500円割引)とありがたい。快晴のもと、こつぷり山より残雪の白山、別山、大長山、赤鬼山、経ガ岳、遠くに荒島岳と大展望に一同感嘆の声。ミスバショウ群生地、取立平の水源には残雪が残り、今は盛りの花々、取立山山頂で再度展望を楽しむ。登山口に下山後、駐車場の廻りで山菜取りに夢中になる。皆さん山もお土産も大満足で帰途につく。	本郷善之助、長瀬茂正、畑山禮子、柴田弘子、田中智子、神阪洋子、安田久美子、村浜孝子、寺島直子、青木義雄、西田保、岸本久仁雄、仙谷経一郎、村浪義光	14
279	一般159	鈴鹿・雨乞岳	2009/5/24	三原、長瀬	雨乞岳は足の便が悪く入山者の少ない山である。この度は、昨年第2名神が開通して大阪から大分近くなり入りやすい山となりました。ところが鈴鹿スカイラインが工事の為、登山口の4km程手前で閉鎖されている事が、長瀬リーダーの偵察の結果解り、彼の判断で手前の稲ヶ谷から登ることとなりました。このルートは踏み跡程度の道はついているが結構急で要所にはロープも張ってあるが、気の抜けないトラバース等もあり、慎重に通過する。ブナやナラの自然林を抜けて、笹の藪を漕いで稜線に出る。今までの景観と一変してなだらかな雨乞岳が眼の前だ。頂上で昼食後、東雨乞岳から尾根通しに武平峠方面へと下山する事とする。ここも地図には無いルートであるが、境界標と赤テープを探しながら尾根を忠実に下る。スカイラインに出て車道を約4kmウォーキングのおまけ付きとなりましたが、目の覚めるような自然林の中を自分達でルートを探し求めて歩く静感派登山の一日でした。	三原秀元、長瀬茂正、堀木宣夫、板谷佳史、柴田弘子、黒澤百合子、近藤さとみ、仙谷経一郎、畑山禮子、安本昭久、安本嘉代、小椋美佐、安岡和子、田中智子	14

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
280	OP115	大峰・七面山	2009/5/30~31	宮平、板谷	キャンプ地湯ノ又(旧飯場跡)から車で移動、舟ノ川・地獄谷へ、直前から小雨でのスタート、林道小一時間かけ七面山登山口着。さほど気にならない雨、傘をさしての急登が始まる。七面尾過ぎたところから見頃の済んだ「シヤクナゲ」の花が登山道に落ちている。今年の花は1~2週間早く咲いたようだ、加えて花芽も少なく裏作か・・・好き放題な事言いながらササ原超えると西峰に着いた。白ヤシオ、アケボノツツジが咲いている。先着2人連れがいた、すぐさま東峰へ七面南壁には青春の思い出がつかまっている、初登攀した人物も今ここに居る、1972年の出来事である。実に37年が経っている。雨であってもガスっていても大峰を好きな人が集まる、恒例大峰シヤクナゲ登山かれこれ25年続いている。来年も又来るぞと言いつけ聞かす。	宮平良雄、板谷佳史、長瀬茂正、畑山禮子、保木道代、黒澤百合子、大西征四郎、仙谷経一郎、近藤さとみ、本郷善之助、寺島直子、奥中種雄	12
281	一般160	近江・蓑作山	2009/6/6	紀伊埜本、奥中	曇りから、次第に晴れ間が望まれる爽やかな日和にめぐまれた。ハイキングはやはり晴れた日が良い。箕作山(372m)から北に下る尾根の頂(324.7m)に箕作城がある。その西に、中仙道を抱え込むように擁立する観音寺城(きぬがさ山432.5m)。北には愛知川の渡河点を抑えるがごときのと和田山城(180.1m)、これらが箕作山の山頂から手に取るように望まれる。鎌倉時代からおよそ400年近く、この近江の国に君臨した六角氏(宇多源氏=佐々木源氏=近江源氏)が、織田信長の上洛を阻止せんと本城、支城を絡めた壮大な防衛線を敷いたところだ。それにしても、ここから見る近江の国のなんと平らげなことか、小さな山塊がまるで湖面に浮かぶ島々のようだ。少しでも高い所へ登りたがる山ヤの癖が、ときに有難い恩恵を蒙ることがある。疾風のごとく時代を駆け抜けていく信長の姿、一夜にして崩れ去る名門の砦、それらが鮮やかに甦るのは、こうした鳥瞰のお陰だろう。これはまた机上では得られない喜びだと思う。帰路は、巨岩信仰の太郎坊山を巡る。巨岩には免疫性があるはずなのに、見るとつい胸が弾む。平地からいきなり突出する巨岩は、やはりそれなりの見応えがある。それより、近江鉄道太郎坊駅のなんと素朴で質素でレトロな様か、一同アッ!と顔を見合わせたのはこの日の終わりにふさわしい幕切れでありました。	紀伊埜本節雄、奥中種雄、仙谷経一郎、谷村洋子、畑山禮子、三原秀元、堀木宣夫、岡本佳久、寺島直子、小椋美佐、紀伊埜本博美、神阪洋子、近藤さとみ、宮平由紀子、山本洋、三浦清江、齋藤容子、辻角ますみ、三木敬子、野口秀也、和田都子、河野佐智子、杉本栄子、山田春雄、和田敬子	25
282	一般161	六甲・石楠花山	2009/6/14	板谷、安部	六甲でのEPE例会は昨年10月以来、久しぶりとなりました。関西の山屋にとって六甲はやはり懐かしく、またどことなくハイカラな雰囲気があつて田舎の山ばかり登っている合間に、時々やって来ないと気が収まらないのは私だけではないと思います。今回は訪れるハイカーも少ない裏六甲の隠れたピークを踏んだ後、六甲でも一、二を争う華やかさだが、雑踏と言ってもよいくらい人の多いトエンティクロスを経て、憩いの場所再度公園を訪ねた。下山路はこれも人が少ない大師道を選び、明るい新緑の表六甲の景観を楽しみながら元町、三宮を目指しました。	板谷佳史、安部泰子、杉本栄子、和田敬子、紀伊埜本節雄、紀伊埜本博美、小椋美佐、奥中種雄、柴田弘子、田中智子、神阪洋子、寄川都美子、加福輝之、仙谷経一郎、畑山禮子、江本恭子、長瀬茂正、黒澤百合子、岸田暎子、辻角ますみ、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子	23
283	一般162	北摂・半国山	2009/6/21	三原、大西(征)	亀岡地方は大雨注意報との予報にやきもきしながら出発する。案の定バスが登山口に到着頃より降り始めてくる。音羽溪谷の登山道は薄暗く、石がゴロゴロして滑りやすく、そして急な登りをひたすら登りつめ峠に着く。やっと涼しい風も出てきて一息つく。もうひとがんばりで頂上に到着。天気も回復してきて気分も晴れてくる。ゆっくりとティ&デザートタイムとなる。下山は平安時代の古刹、重要文化財等もある金輪寺を訪れて、宮川へ下山、タクシーにて亀岡へ戻る。今日は蒸し暑い一日で思いきり汗をかいたが、そのぶん体も軽くなり、さわやかな気分が帰りました。	三原秀元、大西征四郎、奥中種雄、板谷佳史、畑山禮子、笠松マサエ、神阪洋子、仙谷経一郎、柴田弘子、寺島直子、寄川都美子	11

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
284	一般163	南葛城山・サカモギ谷	2009/6/28	板谷	今シーズン最初の沢登りです。すでに何回も遡行して通い慣れた、と言えるほどの谷ですが、「こんな滝有ったっけ?」「こんなヤバい巻き道通ったかな?」「前に登ったはずの滝に出会わない」・・・等といつまで経験しても熟達の域に達しないことを痛感しました。おまけに今回は、もう目の前に終了点が見えているというガレ場で、落石による負傷者を出してしまいました。幸い大事には至りませんでした。沢登りを志す者は、普段のハイキング山行とは違う危険度の高さを改めて再確認し、改めて今後とも安全に徹した山行を目指さなければならないと、おおいに反省しました。	板谷佳史、長瀬茂正、安部泰子、本郷善之助、奥中種雄、岸本久仁雄、川守田康行、田中智子、黒澤百合子、近藤さとみ、畑山禮子、柴田弘子、小椋美佐	13
285	一般164	伊吹山	2009/7/4	本郷、奥中	梅雨の時期としては良い条件の晴れ時々曇りの一日でした。計画時にはゴンドラが営業してその後廃止となり、久しぶりに登山口より歩くことになった。(正味の標高差1,150mを往復することに)夏の暑い時で参加者が何人になるのか少々不安があったが全員で19名となり花の伊吹山の人気を再認識することに。三合目より見上げる山頂はさすがに高い、花は最盛期より少し早そうだが、それでも伊吹山、いたるところでいるんな花々がある。遊歩道を一周するも展望は鈴鹿・壺仙山方面と山麓が望まれたのみ、北方の展望は残念ながら無い。近江長岡駅と登山口の往復をタクシーの利用で時間を要し帰阪は20時少し前となった。	本郷善之助、奥中種雄、岸田暎子、神阪洋子、松本明恵、田中智子、柴田弘子、小椋美佐、仙谷経一郎、笠松マサエ、寄川都美子、寺島直子、安本嘉代、和田良次、和田敬子、上原進一、板谷佳史、青木義雄、大西征四郎	19
286	一般165	己高山	2009/7/12	板谷、大西(恒)	予報と違い、期待通りの梅雨の晴れ間の日とはなったが、下部の樹林の中は猛烈な蒸し暑さで時折の涼風が恋しい登山となった。雨と暑さを嫌ってか、終始他人に全く出会うこと無く静かに寺院跡を巡ることが出来た。今回使用した登路はよく整備されていたが、下山に使用した縦走路や高尾寺經由の下降路については、古い道標を見かけるものの、踏み跡が薄かったりブッシュで隠れた箇所や、注意を要する分岐が数箇所あった。	板谷佳史、大西恒雄、堀木宣夫、奥中種雄、仙谷経一郎、大西征四郎、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、岸田暎子、神阪洋子、黒澤百合子、寄川都美子、松本明恵、笠松マサエ	14
287	OP116	大峰・神童子谷からノウナン谷	2009/7/19~20	長瀬、板谷	昨年度は大雨でタクシーに入山を断られ中止、今年、再度梅雨明けの好天を期待して計画をしましたが、あいにく各地に大雨注意報が出る中の入山となりました。幸い、遡行中は雨に降られる事もなく途中泳がなければならぬハブニングもありましたが、順調に行動しノウナン滝付近で幕営、女性陣の心のこもった豪華な手料理と担ぎ上げたお酒で楽しく歓談。夜半からは激しい雷雨も、明け方には雨も小康状態に・・・雨模様の天候、昨夜来からの雨による増水等で想定した以上の時間がかかる事などの影響を考慮し、ノウナン滝より上部の遡行は取り止めノウナン谷左岸の尾根にルートを変更、柏木に下山しました。	長瀬茂正、板谷佳史、安部泰子、柴田弘子、保木道代、本郷善之助、川守田康行、黒澤百合子、小椋美佐	9
288	一般166	京都・天王山・十方山とビール工場見学	2009/7/26	大西(恒)、大西(征)	天王山のノーマルルートからのハイキングです。途中には重文の金剛力士像のある仁王門を持つ宝積寺、羽柴秀吉の千成瓢箪の旗を立てたという旗立松、十七烈士の墓、校倉造りの神輿庫(重文)のある酒解神社と見所も多い。天下分け目の山崎合戦ゆかりの説明板も多く、道も整備されていて歩きやすい。1時間の登りで天王山に着くが見晴らしの悪い広場という感じのところであった。歩き出しはきつい日差しで雨を感じさせなかったが着くころに雨が降ってきた。十方山も小雨の中で立って昼食となった。サントリービール工場見学の都合(時間指定)で小倉神社に下った。指定の時間には余裕があったが蚊が多く早々に下る。神社からタクシーでビール工場へ行く。休日では映像での説明と設備の見学だけであったが、そんなことはたいしたことではない。試飲が楽しみであった。試飲は一人三杯までであった。新鮮な生ビールに堪能しましたが、長岡京駅までの歩きで汗と消えました。	大西恒雄、大西征四郎、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、奥中種雄、山田春雄、寺島直子、寄川都美子、小椋美佐、近藤さとみ、神阪洋子、安岡和子、西村美幸、谷村洋子、柴田弘子、田中智子、畑山禮子、岸田暎子、三原秀元	22

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
289	OP117	北ア・常念岳、蝶ヶ岳	2009/8/2~6	紀伊栞本(節)、大西(征)	<p>去年は小屋泊まりの縦走を試みた、今年はテントを背負って縦走してみよう。アラセブ(70代)達が少年の様に目を輝かせる。それも頼もしいアラカン(60代)達が協力してくれるお陰だ。でも、日頃の鍛錬や、体調の管理、装備の点検など、互いにきびしくチェックしながら準備に怠りはない。そのうえ、例年なら夏山の天気が最も安定する時期に計画したにもかかわらず、間際になって出発日を3日、スライドすることにした。それだけ今年の天候は気紛れと云うことだ。予約の変更など気忙しいことがあっても、可能な限り荒天を避けるのが、ハイエイジの戦略と特権と云うものだ。初日は、松本市内のビジネスホテルで英気を養う(旧友よ、信じ難いだろう) 2日目。早朝から余裕をもって、ヒエ平から常念乗越しへと登り着く。午後3時、テントを張り終えた頃からガスに切れ間が現れ、ほどなく北徳高の一部が忽然と現れた。(よしスライドの効果だ、憑いてきたぞ) 3日目。4時起床、夜明け前の薄空に、槍、穂高、明神が視界いっぱい広がっている。日の出とともに圧倒的な迫力で迫ってくる。常念から穂高を見たのは初めてである。え?と驚かれても、私にとっては紛れの無い事実、なんとという幸運だろう。明神五峰東壁をこの角度から、しかと見た。前穂東壁の全貌が目当たりにある。松高カミンに初秋からベルグラが張る訳が知れた。四峰正面壁の登攀終了点が意外に複雑なことも、そして屏風岩を真正面から俯瞰する驚き。これほど素晴らしい光景を、これほど素晴らしい観察ポイントを、永年無視してきた、いや知らずしてきた自分にあきれ果てるのだ。6時出発。常念岳を越して、蝶ヶ岳への稜線を喘ぎあえぎ進む。視線は常に穂高に捕らわれるので、躓いたり、よろめいたり、ついにガスがその姿(穂高)を奪うまで食事もうとましい有様だった。そして、長堀尾根の長いながい下りを経て、徳沢園に到着したのは午後5時30分、なんと11時間半の実働だ。しかし、誰もが今日一日の好天と光景に感謝はしても苦情は出ない、有難い事だと思う。4日目も4時起床、6時出発。「明日は雨だ」と聞いていたが、今日も晴れている。(憑いているぞ、これは)奥又白に向う。前日の実働が応えたのか、足取りは重い。石田岩の辺りは土砂の堆積が年々高くなっている様で、以前は見えなかった岩の上のお墓が遠くから望める。女性達が摘んできた野花を添えて、黙祷をする。中畑新道(もはや新道とは)は荒れ放題と云うが、元からしてこの程度だろう。</p>	紀伊栞本節雄、大西征四郎、本郷善之助、奥中種雄、長瀬茂正、畑山禮子、柴田弘子、田中智子、紀伊栞本博美、川守田康行	10

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
					しかし急峻だ「昔ケンケン、いま四つん這い」互いに比喩しながらワイワイ喘ぎつつ登る。N君のエスコートが実に鮮やかだ。日程をスライドした為に、もう一人のN君は残念ながら参加出来なかったが、この両N君の身体能力は現役を凌ぐ貴重な存在だ。奥又白池に11時30分到着。池は美しく静寂を保っていた。テントサイトは長雨の作る砂模様にも塵一つ無い。30年近く訪れていないが、空白を感じさせない。周りの草丈が少し高くなったかと思うが、池は満々の水をたたえ小さなさざ波が立っている。初めてここに来たのは51年前。50年前には石田正武君を失った。48年前には水田真理君を失った。43年前には稜を隔てた明神で田中靖夫君、宮阪喜久夫君、西尾保昌君を失った。そして近年、北尾根Ⅲ峰で岸本浩君が逝ってしまった。穂高にはぬぐいきれない悔恨がある。だが「君より50年も長生きしているよ」そう呟いても、自分は意外なほど落着いていた。O君が「これが最後の墓参となりますね」と云うが、やはり湿っぽさは感じられない。どうしたことだろう、自分自身が鬼籍に近づいて来たからだろうか。それとも、一昨日から続く厳しい歩みの果てに、ようやく辿り着いた感動が先行するのだろうか。徳沢園から夕暮れ迫る上高地に向う。疲れている筈なのに、不思議と足取りは軽い。何と50分ばかりで明神に着いた。この弾む気持ちはどこから来るのだろうか、全員が若者に戻った気分だ。今夜は乗鞍高原に宿をとる。かけ流しの源泉に浸かると、今日もまた実働12時間の行動に、やりましたね、と終止符を打った。5日目。タクシーに揺られ松本に向う。この山行、いったいバブルと云うのか、エレガンスと云うのか、それともエンジョイとするか、意味の無いことをつらつらと思う。しかし心はずでに、次なる山行に移り行く自分が其処に有る。アラカンよ、アラセよ、ガンバロウゼ!		
290	一般167	金剛山・妙見谷	2009/8/16	本郷、大西(征)	夏の暑さを逃れて、涼と緑陰を求めて歩きませんかと呼び掛けに、参加者21名となりました。今日は出来るだけ水流のあるところを忠実に歩きたいと、8月中旬にしては水量の多い妙見谷で、少しですが谷歩き楽しさを味わって頂けたのではと。真夏の暑い時期は涼しい木陰と水音を聞きながらのハイクが一番ではないでしょうか。	本郷善之助、大西征四郎、堀木宣夫、和田良次、和田敬子、杉本栄子、和田都子、藤田喜久江、河野佐智子、西村晶、西村美幸、翁長和幸、岸本久仁雄、奥中種雄、板谷佳史、松本明恵、山下登志子、宮平由紀子、田中智子、寺島直子、小椋美佐	21
291	一般168	伊勢・矢頭山	2009/8/23	大西(恒)、長瀬	タクシーの車窓から一目見てそれと判る鋸歯状の小ピークを持つ矢頭山は、見た目ほどハードではなかった。しかし、我々を飽きさせなかった。飯炊きではないが、はじめチョロチョロ、中パツパの構成である。不動滝を経て椿小屋までの1ピッチは足慣らしにちょうど良い登りであった。そこから急な一登りで大日拝展望台、急な下り、馬の背状の岩尾根、固定ロープのある急登(表現ほどたいしたことがないが)の小ピークを二つほど越えて最後の一登りで矢頭山の頂上に着く。5メートル四方ぐらいの明るく開けたピークである。右に津市街、伊勢湾の海岸線、左手に局ガ岳、台高方面が遠くかすんで見えた。いたるところに山名を書いた札がぶら下がっている。人気の山なのだ。下りは余所見ができないほどの急な下りで峠の車道に出て、少し下ると最初の登山口に出た。大阪から電車で往復4時間、伊勢の名峰は遠かった。	大西恒雄、長瀬茂正、畑山禮子、小椋美佐、柴田弘子、寄川都美子、安岡和子、板谷佳史、大西征四郎、紀伊塾本節雄、奥中種雄、堀木宣夫、神阪洋子、黒澤百合子	14
292	OP118	台高・木屋谷川廻行～国見山	2009/8/29～30	板谷、長瀬	誰もが無理なく楽しめる沢をと、物色して選んだ沢でした。期待どおり大きく高巻くような滝は無く、途中、ザイルを使うような箇所は一回のみで済み、各人の判断で攀じれる小滝や滑滝の連続で、ザックも日帰りの軽装だったので楽しい沢登りが出来ました。前夜半に雨が降り当日の天候が気がかりでしたが、曇り空ではあるが時折日が射すという絶好の沢日和となって、心配していたヒルの出没も無く、冷たく澄んだ清流と緑深いブナ林を存分に味わってきました。下降路にとった奥山谷の登山道は地図に登路として記入されてはいるものの、谷のへつりが連続し、荒れた箇所が多く気の抜けないルートである。	板谷佳史、長瀬茂正、保木道代、本郷善之助、黒澤百合子、安部泰子、柴田弘子、川守田康行、小椋美佐、畑山禮子、松本明恵、田中智子、飛田典男	13

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
293	一般169	鈴鹿・釈迦ヶ岳	2009/9/6	三原、大西(征)	今日は朝から全くの快晴、残暑の厳しい山行になりそうだと思いがら車3台で大阪を出発する。登山口で長瀬氏と合流する。朝明キャンプ場を経て庵座谷を詰めて行くルートは昔に比べて標識やテープもあり解りやすくなっている。庵座の滝に近づくにつれ崩壊地等も現れ滝の方へ行く道も解らなくなっていた。滝はあきらめて先を急ぐ。右側より中尾根に上るルートが現れたが、さらに谷を詰めて釈迦ヶ岳の最大の迫力あるポイント、大蔭(おおかげ)と呼ばれる大崩壊地へと突き進んでいくが、ここでルートは完全に途絶えてしまう。強引に行っては危険と判断し、手前の比較的穏やかなルンゼを登ることとする。ここもボロボロの花崗岩の浮石だらけのルートで、いつ岩ナダレが起こるか知れない様なところを登っていく。皆んな喉の乾きも空腹も忘れて必死で頑張って稜線にたどり着きホッと一息入れる。ランチタイムはもうどうに過ぎているが、頂上はもう目前であるので、もう一頑張りする。遅い昼食を済ませ、三角点を往復する。帰路は新しく出来た中尾根ルートを下る事とする。今回18名もの大パーティのためなかなか思う様に休憩場所も無く、不規則な休憩のとり方となったり、谷の詰めで正規のルートを見出す事が出来なくてかなり厳しいルートの選択となり、一般例会なのになかなかきつい山行となった事をお詫び致します。そして何より事故も無く下山出来た事を心より喜んでおります。	三原秀元、大西征四郎、田中智子、柴田弘子、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、翁長和幸、近藤さとみ、寺島直子、寄川都美子、畑山禮子、小椋美佐、板谷佳史、黒澤百合子、神阪洋子、奥中種雄、長瀬茂正	18
294	一般170	湖南・大戸川吉祥寺谷	2009/9/13	板谷、安部	初級者向けの沢登りとして和泉の谷を計画することが多かったのですが、今年は目先の変わった谷をと湖南アルプスの谷歩きを企画しました。谷は浅く、全長も短くすぐ大戸川本流に流入しているし、おまけに入谷地点は人家にも近く、お世辞にも綺麗な流れとは言えないし、堰堤も多数あって興味も半減しますが、昨日の降雨のおかげで水量が増して、余計なアラが隠されているのか、特に上流に行くと美しささえ感じられました。また技術的に困難な滝等は無く、ザイルを使用する箇所も無く、全体にスピーディに通過出来ました。白い花崗岩が明るい湖南アルプスの風景とマッチして、今シーズン最後の沢登り例会を楽しく終えることができました。今後もこのように技術的に容易で安全度の高い沢登りを企画して、経験者を増やして行きたいと考えています。	板谷佳史、安部泰子、田中智子、柴田弘子、川守田康行、小椋美佐、畑山禮子、黒澤百合子、奥中種雄、長瀬茂正、松本明恵、安岡和子、近藤さとみ、岸本久仁雄	14
295	一般171	六甲全山縦走-I	2009/9/20	大西(恒)、本郷	六甲全山縦走の全体から見ると今回の行程は極々一部分でしかないが、ハイキングとしては申し分ない距離(約16km)でした。六甲山脈の中でも一番海に近いこのコースはいたるところで眺望に恵まれ、眼下に瀬戸内の明るく開けた景色を目にすることが出来た。特に明石大橋、淡路島が手の届く位置に大きく見え、地図上での距離以上にその近さを実感した。登りで大汗をかきかけれども爽やかな風が心地よく、景色と相まって疲れを感じませんでした。これも絶好の秋日和の中でのハイキングだからでしょうか。コース中にある三回の住宅街通過は、山中で地図を読むようにはいかず”六甲全山縦走路”の道標が頼りでした。それでも高取山を下った駅までの最後の町歩きではどこかで間違ったらしく、鶴越駅より丸山駅が近かった。	大西恒雄、本郷善之助、河野佐智子、和田都子、寺島直子、和田敬子、和田良次、小椋美佐、神阪洋子、堀木宣夫、吉田伸寛、大西征四郎、杉本栄子、西村晶、内杉安繁	15
296	一般172	和泉山脈・燈明岳	2009/9/26	三原、大西(恒)	何か神秘的な匂いのする山名「燈明岳」(大鳴山にも灯明岳という山があり区別して東の燈明岳といわれている)は、その名前の通り友が島の1番・序品窟に始まり和泉山脈、金剛山、大和葛城山を経て大和川の中にある28番・亀の瀬岩に至る役の行者に繋がる法華経の山岳修験道・葛城28宿経塚のある山である。主稜線や堀越観音のある和歌山側からの道ははっきりしているが、滝畑ダムから地図上では容易にラウンドできるコースは、通る人の少なさが判る頼りない我々好みの道でした。時間的には手ごろな山城ですが油断すると意外と時間がかかり、近い割にはワイルドな味のある山城である。今回も、我々以外の人には会わない静かな山歩きができました。	三原秀元、大西恒雄、寺島直子、近藤さとみ、岩本和行、小椋美佐、神阪洋子、和田敬子、實操綾子、杉本栄子、山本洋、中川雅嗣、安本嘉代、谷村洋子、岡本佳久、加福輝之、安岡和子、岸本久仁雄、西村晶、山田春雄	20

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
297	OP119	南ア・光岳	2009/9/26~28	紀伊壱本、長瀬	南アルプスの最南端にあるのが光岳(2591m)である。興味があるとすれば、その程度で、正直なところ若い頃には見向きもしなかった山である。そのうえアプローチは極めて不便で、静岡県の大井川の奥にある寸又峡から、さらに2日もかかるとなればどうしようもない。もっとも、その頃は盟主北岳(3193m)でも同じようなものであったが、、、。光岳が取り組み易くなったのは、百名山ブームの恩恵であろう。いつの頃からか、長野県側の遠山川の林道から登山道が開かれたのである。また、山頂の下には静岡県管の立派な山小屋が立てられている。営業は9月半ばで終わるといので、その後はどうやら自分たち好みの静かな山になるだろう。申し訳ないが、まことに勝手な目算である。第一夜は、JR飯田線平岡駅構内に併設された宿泊りである。翌早朝5時、予約したタクシーとN君の車に分乗して易老渡まで入った。ここから易老岳(2354m)まで、尾根筋をストレートに高度差約1500mを登ることになる。今年は9月に入って、久しく雨らしい雨は降ったことが無い。山小屋付近の水場は枯渇していると予測して、各自持ちの飲料水は最低1.5L、他に共同用水として14Lを担ぎ揚げることにした。この重荷でこの高度差は苦しいピッチである。予定通り5時間を要したが、女性にはカラカラに乾燥した山で蛭に襲われることのない方が、よほどうれしかったようである。光小屋までさらに3時間を費やした。小屋には先客が3名居られたが、山小屋は吹き抜けの立派な2階建て、階下は我々7名の使い勝手となる。時刻はまだ午後3時を回ったところだから、ゆっくりの晩餐となる。一日の激しいアルパイトのあとと寛ぎ、これほどの贅沢はないだろう。翌朝も4時起床、5時までに山頂に向かう。真東に富士山のシュルエットがくっきりと浮かぶ、風は強いが視界は良さそうである。山頂の南西下に山名の由来となった光岩が見える、が山頂の周囲は樹木が重なりご来光は拝めそうもない。急いで小屋まで下る。やがて眼前に見事な光景がひろがる。富士の背景が徐々に曙に染まり、おやおや、このまま明るくなってしまふかと思った瞬間、予期もせぬその下から真っ赤な太陽が現れ、ぐいぐいと登ってくる。まさに固唾を呑む一瞬である。長い山行きのなかで、これほど素晴らしいご来光は観たことがない。特別な信仰はなくと下山はただ登路をひたすらに下る。遠山川といえば、40年前まで森林軌道車が牽かれていたという。故岸本浩君が、遠山川を遡り聖岳まで直登したとき、軌道車に便乗できたのだろうか。その軌道車が、秋葉街道の傍らに寂しく展示されていた。タクシーを止めて、車中からただ黙視する。思えば、彼は学生の頃ひとり遠山川の源流を行ったという、やはりどこか偉い男である。私は今にしてようやく、このような山がいとおしく思うのである。焼岳(北ア)、恵那山(木曾)、越百山(中ア)、常念岳(北ア)いずれもここ数年、EPEの例会で取り上げてきたのがこの種の「端っこ山」である。光岳もその連番に違いない。ただ早い話が、登り残した山が気掛かりなだけかも知れないのだが。今回も天候の予測から出発日を1日前にスライドした。これがまたも幸いしたと思う。でも、スライドしたのが原因ではないが、それぞれの理由から3名ものアラセブ(70才代)仲間不参加となる。まことに残念である。同好の士は一人でも多い方がうれしい、忘れないで欲しい。また次回もあるよ！頑張りましょう。	紀伊壱本節雄、長瀬茂正、笠松マサエ、柴田弘子、田中智子、紀伊壱本博美、川守田康行	7
298	一般173	信楽高原・笹ヶ岳	2009/10/4	三原、長瀬	秋晴れの運動会日和の一日、大阪から電車を三度も乗り継ぎし、そしてタクシーで登山口の南新田に着く。頂上までは杉の植林や笹の繁る直登である。頂上は信楽の山らしく大狸が鎮座して我々を迎えてくれる。頂上からは阿星山や飯道山が同定できる。昼食後、時間があるので旧跡の廃寺跡や井戸を見に行く。下山は登路の西側の尾根を南新田に下山する。歩行距離は僅かでしたが、上りも下りも急な山で、まあまあ充実した一日でした。	三原秀元、長瀬茂正、大西征四郎、本郷善之助、柴田弘子、神阪洋子、寄川都美子、近藤さとみ、紀伊壱本節雄、紀伊壱本博美、杉本栄子、西田保、寺島直子	13

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
299	OP120	妙高山、火打山	2009/10/4~	本郷、大西	荒天中止		
300	一般174	六甲全山縦走Ⅱ	2009/10/11	板谷、安部	登山クラブの例会というからには六甲の全山縦走は外せないだろうということで、ただし二回に分けて企画されました。どこで二分するか? 縦走路途中に駅があるのは鶴越だけなので・・という結果、後半の今回はきつい行程になりました。全縦走の標準所要時間:12時間から割り出して今回の目標を8時間としましたが、少し無理があったようで約11時間を要しました。それでも最後まで余裕を持って完走することが出来、EPEクラブのパワフルさを証明できました。なお、六甲全山縦走路(須磨浦公園駅~宝塚駅間)は全長53Km、その内今回の区間は約37Kmとなります。	板谷佳史、安部泰子、堀木宣夫、神阪洋子、田中智子、長瀬茂正、柴田弘子、笠松マサエ、松本明恵、安岡和子、小椋美佐、西村晶、黒澤百合子、岸田暎子、谷村洋子	15
301	一般175	槇尾の双耳峰・上山と 猿子城山	2009/10/17	紀伊埜本、奥中	お昼頃から時々小雨がぱらつく怪しげな空模様である。でも夏は過ぎ季節は巡り秋である。これからは楽しい里山シーズンだ、気分は爽快である。さて題名の猿子城山だ。山城跡だとする説がある。ボテ峠からこの山頂に至る細くて急峻な尾根筋、山頂の肩にある小さな台地と、なるほどここが山城なら恰好の地形だとよくわかる。だが考えてみると、いかに時代を遡っても、この山の位置、規模からしてここに戦略的な意味があるとは思えない。では狼煙台?か、上山と猿子城山を遠くから眺めると鮮やかな双耳峰に見える(猿子城山自体のコブではない)現に参加者の皆さんにこの山頂に立つてもらおうと「ほおー」という実感ももれる。白州正子著「かくれ里ー」にも滝畑の伝承として狼煙台の話がある。だがそれでもなお私は、単に通信手段としての狼煙台の役割には疑問がある。ここはまず、猿子城山に限って言えば隠し砦、地域の村落が戦場と化したとき、婦女子達の為にあらかじめ用意された避難場所とみればどうだろう。狼煙火は暗闇であっても村人たちの警報にもなり目印にもなる。またそれ以上の危機に直面すれば、隣国に逃れるにこれ程有利な位置はない。面白い説だと思われたらうれしが、これは私の勝手な推論である。こんな話が例会歴史探訪の名に相応しいかどうか、それは参加者の皆さんに委ねるしかない。猿子城山の全体像を知るため、南側の上山の山頂近くまで歩き、さらに北側の槇尾山まで戻って来てくどいほど眺める。いや眺めてもらった。おそらく南北朝時代であつたらうその頃、滝畑村の長の立場にあれば如何様に成すか、これもまた私の勝手な妄想を聞いてもらおう。復路は槇尾山から追分、番屋峠、ボテ峠と朝から一周して振り出に戻った。ほんの軽いハイキングのつもりが、駅前で示された方々の万歩計は20000とも25000ともいう。「いいじゃないですか!」今日もまたお互い楽しくて面白くて健康で、充実した一日を過ごせました。里山バンザイである。ハイキング万歳だ。	紀伊埜本節雄、奥中種雄、小椋勝久、小椋美佐、堀木宣夫、田中智子、山田春雄、津川洋子、山下登志子、加福輝之、岸本久仁雄、秋田文雄、西村晶、和田良次、和田敬子、紀伊埜本博美	16

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
302	OPI21	伊豆七島(八丈島・八丈富士、三原山、御幣島・御山)	2009/10/19 ~24	三原	<p>八丈島は伊豆諸島の最南端に位置し東京から290km離れた亜熱帯気候で、江戸時代は流人の島であった事でも知られております。二つの海底火山がひっついて瓢箪型をした島で西山(八丈島)、東山(三原山)とに別れていて登山や釣り、ダイビング等の観光客も多いようです。</p> <p>10月20日 太平洋の荒波にもまれて八丈島の底土港に到着、皆船酔い気味で上陸する。レンタカーで八丈富士の7合目登山口に向う。ここからは1280段の急な階段の登りで約1時間でお鉢の入口に着く。お鉢周りは約1時間のコースである。その途中に854mの頂上がある。イヌツゲや八丈小笹の中を昨夜からの強風に足元を注意しながら行く。頂上からは白波の立った海のうねりと飛行機の飛び立てない空港が島の中央によこたわっているのがよく見える。7合目に下山後は車で中腹の周回道路を一周して宿へ向う。</p> <p>10月21日 今日は自分と同姓の山でもあるので親しみを持って、舗装された林道を行く。途中のゲートまでと思っていたが、鍵がかかっていなかったの、行けるところまで行くことにする。もう頂上まではわずかの距離である。三原山の頂上にはアンテナが3基あり北側には八丈富士が円錐形の優美な広がりを見せている。</p> <p>10月22日 朝から御蔵島への移動のため港へ行く。今日は港の波が荒く、八丈島を出航しても御蔵島へ寄航する保証の無い出港となる。3時間の船旅でなんとか御蔵島へ上陸することができるアナウンスが有り、ホッとす。さて御蔵島とはどんな島かというと、人口は約300人、御山(おやま)という851mの山が真ん中にあり、ツゲの産地とイルカウォッチングで有名で、この島には70人位しか宿泊施設がないため宿の予約のない人は上陸できないし、キャンプは禁止、自転車も持ち込み禁止、登山も必ず地元のガイドをつけなければ登れないというルールがあり、我々もそれに従い事前に色々と予約をしての上陸でした。今日は島内の散策と民宿泊まりです。</p> <p>10月23日 夜半に降った雨はあがったが、風が相当強いのでガイドと相談してなんとか御山へ連れていってもらうことにする。登山希望する者のみということで、ガイドと西田氏と三原で出発する。御蔵ツゲの群生している、ぬかるんだ道を鈴原湿原ルートで登る。花の季節であればこの島独特の固有種もあるとガイドが説明してくれる。頂上付近は小笹の繁った見晴らしの良いところと思うが、今日は全くガスの中で何も見えない。三角点だけタッチして、午後の船で東京へ帰れることを祈りながら下山する。今日は天候不良のため、登山中の写真はありません。往復3時間くらいで民宿へ戻り、午後の船で東京まで7時間の船旅で今回の島の旅は幕を閉じました。この度の島シリーズの第3弾は企画者の村本、深井氏が不参加となり不慣れな私が担当となり、参加者には何かとご迷惑をかけましたことお詫びいたします。本土の山と違い、アクセスが予定通り行かないことも有り、未知なる部分が多々あり、一味違ったパイオニア気分を味わうことができました。</p>	三原秀元、野口秀也、西田保、岩本和行	4

2009年度(08/11~09/10)EPEクラブ活動報告

2009/10/E現在 板谷

連番	内容		実施年/月/日	担当	コース・タイム・担当者コメント	参加者	参加者数
	例会No.	一般:一般例会 OP:オプション例会					
303	OP122	白山山系・大日ケ岳と三方崩山	2009/10/24 ~25	板谷、長瀬	せっかく長距離を出かけるのだから三方崩山だけではもったいないと考え、大日ケ岳を加えました。交通渋滞で時間不足となるのを心配していましたが、幸いうまく切り抜けられ一日目は余裕を持って行動できました。ダイナランドスキー場からだと短時間で頂上に立てるし、二百名山でもあるので頂上は登山者で賑わっていました。大日ケ岳下山後、平瀬へ移動し、明るいうちに三方崩山登山口にテントを設営でき、夜の食事を楽しみました。どんより曇っていた空も夜半から晴れだし、好天を期待しながらの出発です。空が明けるにつれブナの紅葉が朝日に輝き出す光景を見ながらの登高となりました。約4時間の頑張りで三方崩山頂上に立ち感激の展望を味わうことができました。来年3月の積雪期に再度訪れる予定なので、地形を頭に入れながら、二日間の登山で痛む足を引きずりながら、下降しました。	板谷佳史、長瀬茂正、近藤さとみ、保木道代、本郷善之助、黒澤百合子、安部泰子、柴田弘子、川守田康行、小椋美佐、和田敬子、安本嘉代、谷村洋子、神阪洋子、大西征四郎	15
304	OP123	大峰・大普賢岳	2009/10/31	本郷、三原	週間天気予報は11月1日(日)は雨70%の予想です。木曜日まで経過を見るが、Mさんと相談して日帰り山行とすることを決める。10月31日(土)は晴天が確実でその一日を有効に使うことにする。参加者に連絡して大和上市駅8時20分集合、車で和佐又ヒュッテまで入り大普賢岳を往復することに变更。今週初めの夕刊紙に大台(大蛇嶺)上空よりの紅葉写真が一面を飾っていた。「石の鼻」より天ヶ瀬谷、和佐又山、山葵谷、そして頂上よりの神童子谷の紅葉を楽しみました。予想通りの好天のもと、最高の紅葉を満喫した一日でした。	本郷善之助、三原秀元、近藤さとみ、寺島直子、小椋美佐、板谷佳史、保木道代	7
一般例会(新年会含む) : 35回 / 689名 オプション例会 : 19回 / 232名 例会合計 : 54回 参加者総数 : 921名							